

クルリンと ほしぞらさんぽ 11月号



これからがほしぞらさんぽの季節

日暮れの時刻が早くなりましたね。11月になると日没は午後5時過ぎまで早くなりますし、空が完全に暗くなるのは午後6時半ごろになります（日没からそれまでのうす明かりの間を**天文薄明**てんもんはくめいと言います）。

ということは夏のころよりもっと早い時刻からほしぞらさんぽを始められるわけですね。夏よりゆっくりとほしぞらさんぽができるようになりますから、楽しみも増えますね。

まず見えてくるのは

ほぼ南に明るく見えてくるのは**土星**、東の低い空に**木星**です。木星はずいぶん大きく見えますね。土星は0等級で日暮れ後すぐに見え始めますが、木星はもっと、なんとマイナス3等と格段に明るいのです。

二つの惑星の大きさはそれほど変わりませんが、地球からの距離が倍ぐらい違うのでこんな明るさの違いになるのですね。木星までは約9億km、土星は16億km、太陽までは1億5000万kmですからずいぶん遠いですね。



星は いっぱい？ がらんどろ？

はくちょう座の中心部分とペガサスの四辺形の中と、双眼鏡がある人は見比べてがらんなさい。どちらの方が星の数が多い見えるでしょうか。ヒントは「はくちょう座は天の川の流れの中にある」です。

箱根の山の上など空が暗い場所まで行くと、はくちょう座のあたりに天の川が見えていますよ。

フォーマルファウト

南の空を見ましょう。土星の左下に明るい星がありますね。**みなみのうお座**の1等星、**フォーマルファウト**です。土星がいるあたりは**みずがめ座**で、その右側は**やぎ座**ですが、どちらも明るい星がないので、伊勢原の明るい空では星座の形がつけられないでしょう。

東の空、木星の方を見てみましょう。ペガサスの四辺形から続く**アンドロメダ座**、さらにその左に**ペルセウス座**の星々が弓のように並んでいますね。

秋の空なのに夏の大三角が？

天頂には**ペガサスの四辺形**がドンとあります。これは秋の星座ですね。でも西側を見るとあなたも見なれている**夏の大三角**が見えていますよ。天頂よりちょっと西側には**はくちょう座**がつばさを広げているのが分かるでしょう。はくちょう座の1等星は**デネブ**でしたね。そのすぐ下、ちょうど見やすい高さに、これも1等星の**こと座**の**ベガ**が輝いています。二つとも1等星ですが、どっちが明るく見えていますか。

「夏」の大三角はいつまで見えているのでしょうか。星座早見盤を使って予想を立て、ほしぞらさんぽを続けながら確かめてみましょうね。



その弓なりの星の列の右はじ、木星の左下に、
 なんだかごちゃごちゃとかたまった星が見えませ
 んか。日本では「すばる」と呼ぶ**プレアデス星団**
 と呼ばれる星のかたまりで、地球からの距離は400
 光年あまり。視力のいい人ならば5つ？ 双眼鏡
 でも少しの星の集まりに見えますが、本当は200
 個以上の星のかたまり（星団）で、ほぼ1億年ぐ
 らい前に生まれた兄弟星たちです。

右は、11月の月の満ち欠けです。ほしぞらさんぽ
 に適しているのはいつごろでしょう。

しし座流星群

11月の18日14時が極大と予報されていますので、
 17日(金)の夜、できれば遅い方がいいのですが。
 数はさほど多くないので、しばらくがまんして
 待ってください。月はすぐに沈んでしまうので、
 流れ星を見たことがない人にはチャンスです。



